

大雪山の火山活動解説資料（平成24年10月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成19年12月1日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

噴気などの表面現象の状況（図1-①、図2～5）

旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さは火口上200m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

3日に国土交通省北海道開発局の協力を得て実施した上空からの観測では、旭岳地獄谷爆裂火口の噴気や地熱域¹⁾の状況に特段の変化はありませんでした。御鉢平では噴気及び地熱域は認められませんでした。

1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・ 地震及び微動の発生状況（図1-②）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。



図1 大雪山 火山活動経過図（2010年4月～2012年10月）

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平23情使、第467号）。

次回の火山活動解説資料（平成24年11月分）は平成24年12月10日に発表する予定です。



図2 大雪山 旭岳西側の状況 (10月8日、忠別湖東遠望カメラによる)



図3 大雪山 火口周辺図 (矢印は写真及び赤外熱映像¹⁾の撮影方向)

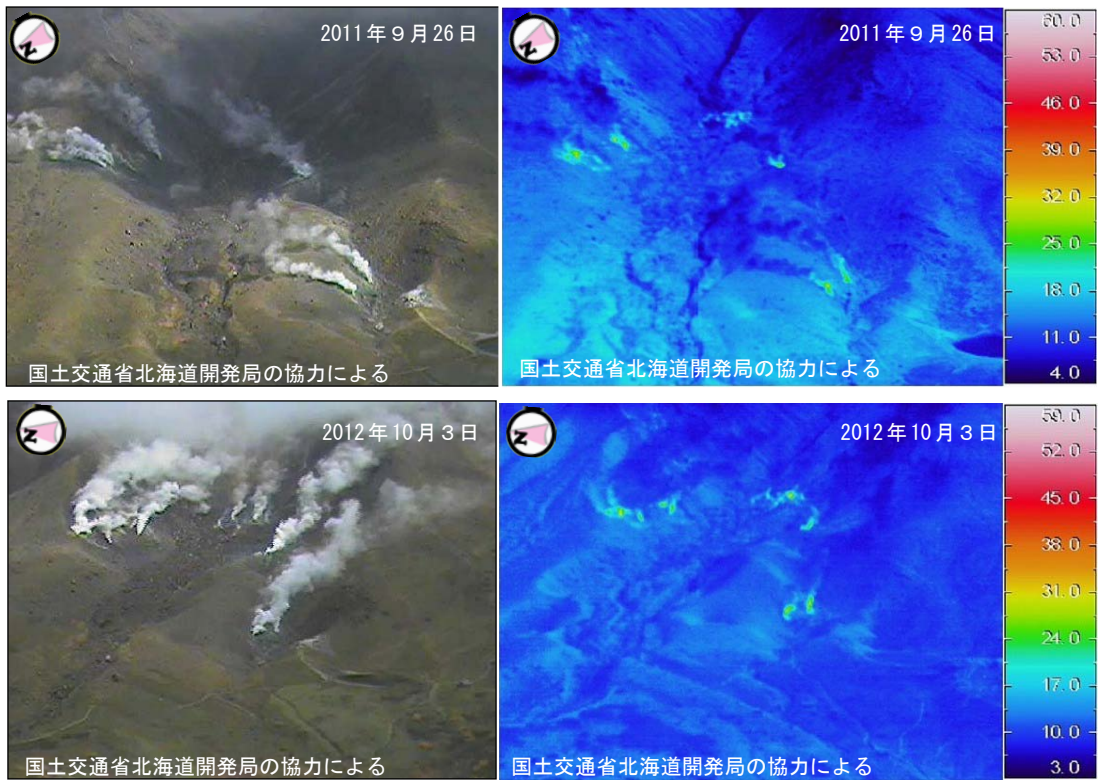


図4 大雪山 旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の状態及び赤外熱映像装置¹⁾による地表面温度分布
(上図：西北西側上空、図3-①より撮影 下図：西側上空、図3-②より撮影)

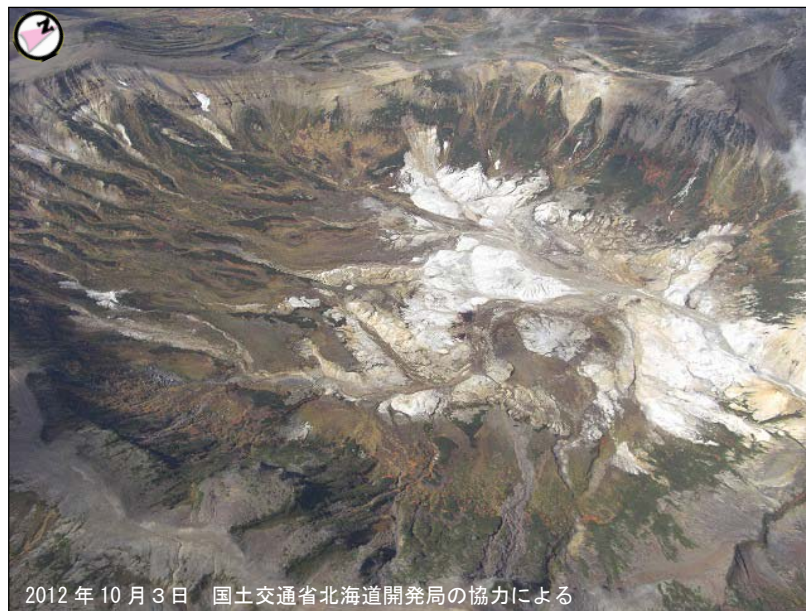


図5 大雪山 御鉢平の状況 (西側上空、図3-③より撮影)

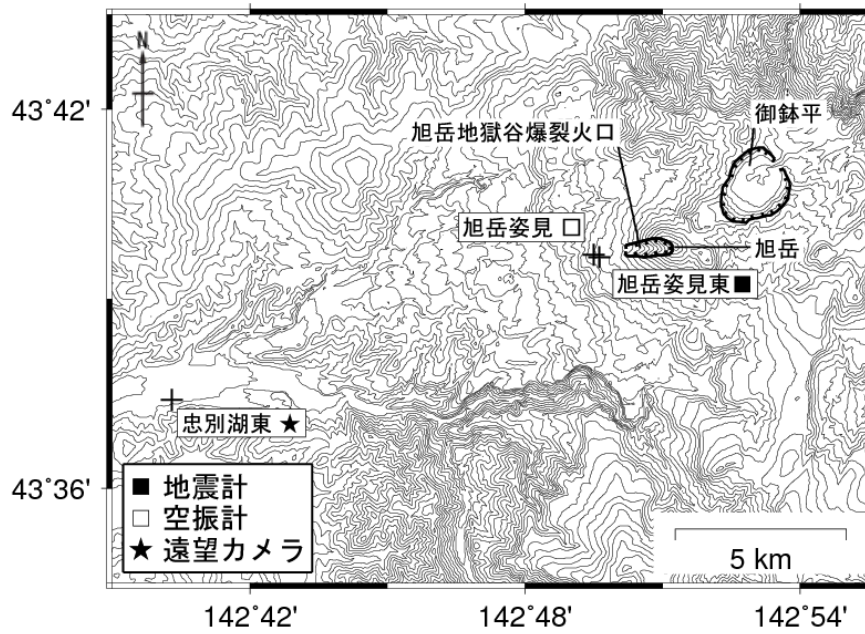


図6 大雪山 観測点配置図
+は観測点の位置を示します